

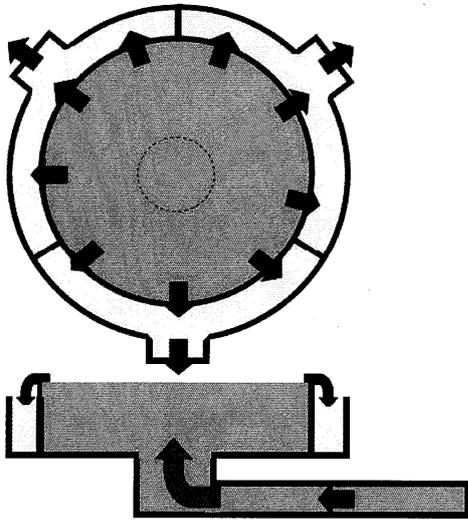
## 【 参考補足資料 】

### ★円筒分土工

背割分土工の欠点を補う分土工です。

サイフォンにより下から吹き上げられた水を、同心円上に越流(またはオリフィスによる)させることにより、用水を均等・厳格に分けることができます。

さらに、円筒分水はその公平性が「誰の目にも明らか」なので、水争いの解消にも役立っています。



円筒分水の偉人	可知貫一	岐阜県阿木出身。農業土木技術者。岐阜県内の耕地整理事業で放射式分水装置を考案する。毎秒1立方尺の水源単価が1万5千円(当時)を超え水価が高騰するなかで、「いささか神経過敏」と前置きしながらこの装置の有効性を立証。後に巨椋池、八郎湯干拓にも参加。京都帝国大学教授。
	子安茂一	岐阜県技師。岐阜県内の耕地整理事業において、可知貫一氏が考案した放射式分水装置を施工・監督。完成を遂げる。
	平賀栄治	二ヶ領久地円筒分水の設計者。
	穂坂申彦	第3代西天竜耕地整理組合長。西天竜幹線水路からの配水不具合(不公平さによる水争い)を解消するため円筒分水を導入。以降、保坂式分水池と呼ばれた。
	京野孝之助	秋田県議会議員。富国強兵策による新田開発により慢性的な水不足に陥った六郷地区。さらに、昭和6、7年が大干ばつになり水争いが激化。流血惨事となった。この水争いを治めるために関田円形分水の導入に尽力し、水争いを解消させた。当時は西天竜と並ぶ最新の分水方法であったという。
	千葉 孝	農林水産省技師。胆沢平野土地改良区に円筒分水を導入することを提案し、初代徳水園を設計。施工管理も指揮した。徳水園の設計にあたっては下九沢分水池を参考にしている。これにより、400年以上にも及ぶ水争いに終止符を打った。

### 沿革

#### ○放射式分水装置の発明

大正14年までに実施された「小泉村耕地整理事業」において、可知貫一氏によって考案され、完成された。

当初は、分水装置の上に鍵付きの木製蓋で覆い、水の管理人以外は手を触れることのない厳粛な装置だった。

#### ○高価な水の分配

富国強兵策による開墾の奨励で、水を確保するためにダム(ため池)が造られたが、水を得るのに高額な金銭が必要なことから、高価な水の公平な分配のため、この装置が考案された、

#### ○多孔から溢流へ改良

当時はオリフィス(孔)の数で分水量を決定していたが、孔は塵芥や草で詰まりやすく、後年は改良型の溢流式が主となった。

#### ○水争いの解消へ

当初は「高価な水の公平な分配」が目的であり、西天竜幹線水路円筒分水群などでも同様に適用されている。

その後、流量の大小に係わらず均等な水の分配が可能なることから、水争いの解消のため全国各地で設置されはじめた。

#### ○射流分土工へ

昭和中期になると射流分土工が考案され、次第に姿を消すこととなる

円筒分水ドット・コムより引用

## 【 参考補足資料 】

### 『円筒分水工とは・・・。』

流送された水を所定の地域に所定の流量、水位で調整・配分する構造物である。機能及び操作状態から、定比式分水工、定量式分水工、操作式分水工（流量調節）に分類される。



石巻市前谷地円筒三方分水工